

町の概要等

○北海道オホーツク総合振興局管内の南部に位置し、
総面積は716.8km²と、全道屈指

○総面積の約86%を森林が占めており、林業・林産業が
町の基幹産業を形成

○人口減少 昭和35年 15,676人(ピーク)
令和7年9月 3,904人

○高齢化率 令和7年9月 45.88%

⇒少子高齢化が進む中、森林の循環利用を
進めるべく、未利用材を活用した木質バイオマス
エネルギーに着目



背景

○昭和57年 「愛林のまち」を全国で初めて宣言

日本林業の発展を願い、森林資源の持続的な保全・活用を目指す

○平成19年 「バイオマスタウン構想」の策定

林業・林産業で生じる残材をペレット等の燃料に加工し熱利用
することで、森林資源の循環と環境保全型社会の構築を検討

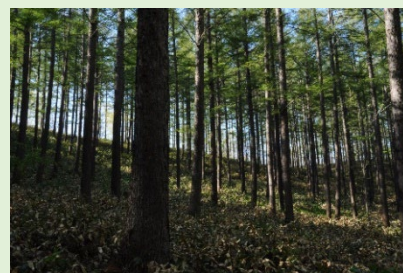
○平成21年 津別町ペレット協同組合の設立

木質ペレット製造施設を稼働

以降、町内各施設にペレットボイラーや熱供給システムを導入

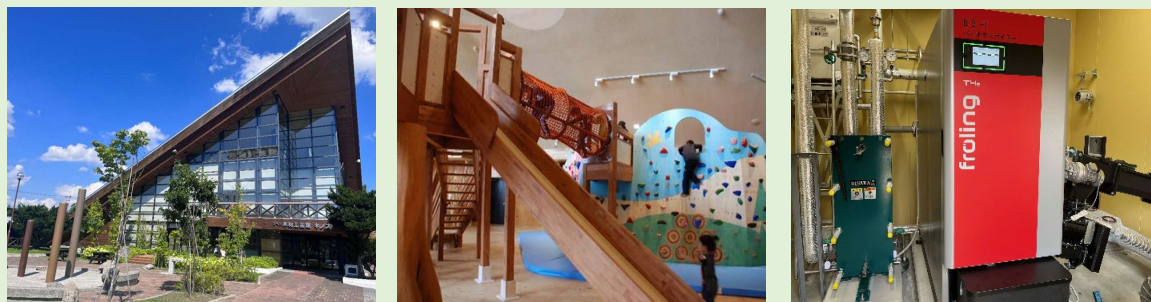
○令和5年 木質バイオマスセンターが稼働

未利用材の収集やチップ化・販売等の中間処理を開始



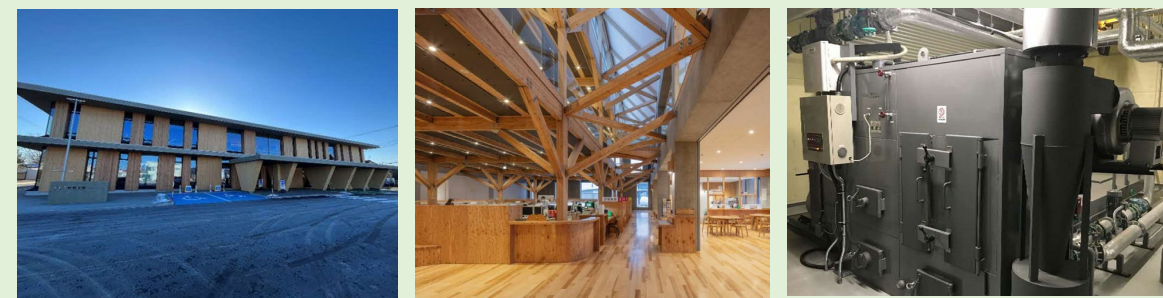
OH31.4 つべつ木材工芸館 キノス

・木とふれあい、木を学べる、親子連れや観光客で賑わう
体験交流施設



OR3.3 津別町役場

・「愛林のまち」津別町の新庁舎として、木材使用量の9割を町内産、
1割を道内産で建設。地元の資源活用・経済の好循環に貢献



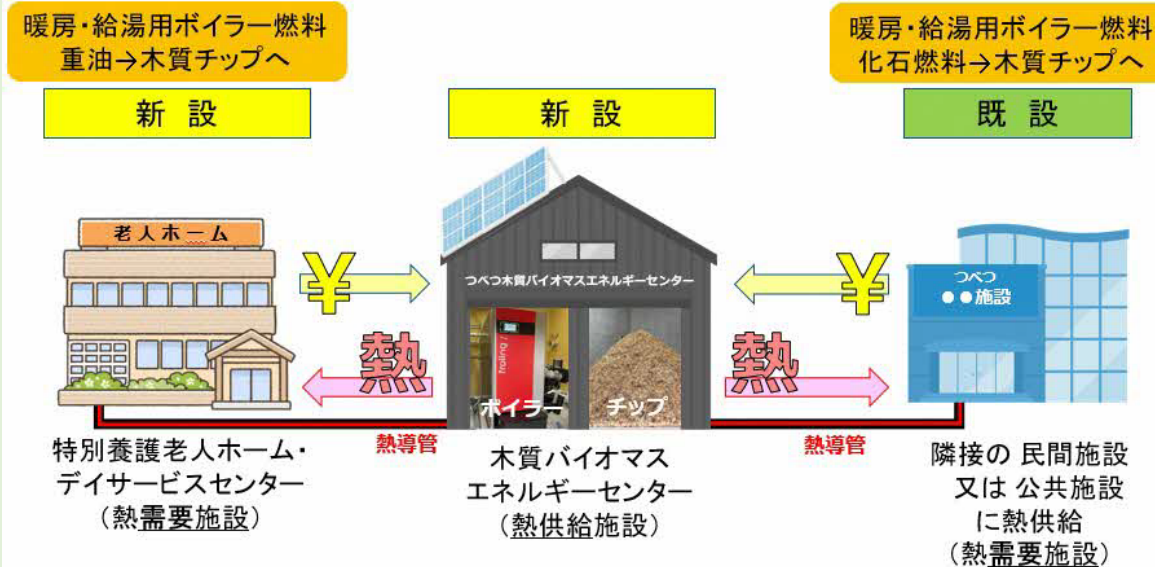
OR5.11 津別町大通地区コミュニティ施設「ウッドリーム」

・バスターミナル、ハイヤー会社、スーパーマーケット、図書館、アトリウムを融合した複合施設。
町が目指す「歩いて暮らせるコンパクトシティ」実現のため、多くの機能を集約した交流拠点



今後の取組・可能性

- 民間特別養護老人ホーム及びデイサービスセンターの移転新築計画にあわせ、暖房及び給湯のエネルギー源について木質バイオマス化を提案し、木質バイオマスエネルギーセンターから隣接する複数施設に熱供給を行うことを計画
- 未利用材の活用は発展途上であり、家畜の敷料や飼料など農畜産分野や薪利用など、他分野への広がりの可能性
- これらの広がりにより、持続可能な地域循環型社会を確立するべく、「Ki-Cycle(木ーサイクル)つべつ」プロジェクトを進めていく



連携協定

- R7.6 ソフトバンク株式会社のグループ企業である株式会社ステラグリーンとの連携協定を締結
- ・町有林を中心としたJークレジットの創出を行うことで新たな環境価値を作るほか、カーボンニュートラルの実現に向けた多岐にわたる活動を展開予定



寄附をするメリット等

- 企業様のメリット
 - ・町HP、リリース、広報誌への掲載等での企業様のご紹介
 - ・持続可能な地域循環型社会確立への活動に取り組むことによる企業イメージの向上
 - ・感謝状の贈呈
 - ・社員研修の場の提供
- 連絡先

北海道津別町役場住民企画課ふるさと納税係
TEL:0152-77-8701
E-mail:furusato@town.lg.jp